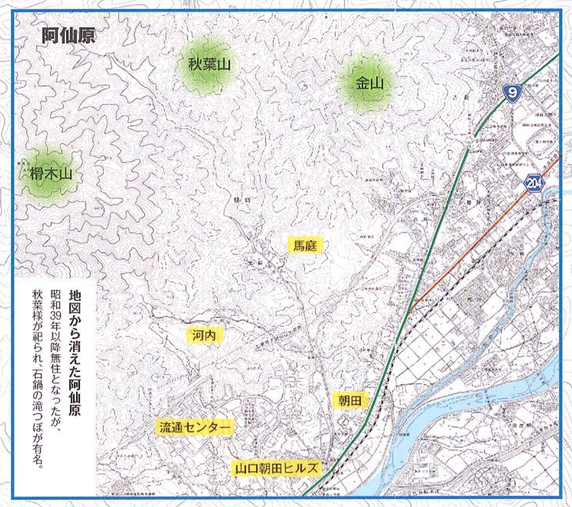
この地図は、山口市長の承認を得て、同市発行の山口市都市計画図を複製したものです。
（承認番号　平成29年5月17日都第37号）



地図から消えた阿仙原
昭和39年以降無住となったが、秋葉様が祀られ、石鍋の滝つぼが有名。

A1 馬庭の大岩
馬庭の出口は２つの大岩にふさがれ、交通の難所となっていたため、「山姥の忘れもの」と言い伝えられた。昭和初期の道路拡張工事で１つは爆砕されて難所は解消。１つ残った大岩が伝承を今に伝えている。

A2 朝田公会堂の木像（善光寺）
「寺社由来」に大内時代、光明山善光寺という大寺があったが、兵火で焼け、今は草庵を堂守が守るのみと書かれている。今は善光寺にあったとされる３体の像が朝田公会堂に祀られ、２体は脇立の地蔵菩薩と大内義弘像と伝えられている。

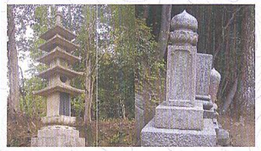
A11 黒川市公会堂の薬師如来像
供有橋のたもとに薬師堂があった。地下の草庵で、廃堂は約2.7m×4.5m。本尊は金仏の薬師如来像（約90cm）。脇立は木像の弘法大師であった。今は跡形もなく、草庵にあったとされる仏像が黒川市公会堂に祀られている。

A12 恵美須社
恵美須は七福神の一人で、商売（商家）の守り神。所在地の「黒川市」はその名の通り大内時代に交易の市がたった所で「市恵美須」として祭られてきた。現在も毎年１月に祭りが行われている。

A3 馬踏堤防と杉民治
吉田松陰の長兄で藩の民生主事であった杉民治が明治３（1870）年に行った椹野川の治水工事、関屋橋から椹野川上手までの80間（約150m）の堤防上に石畳を敷いて越流堤をつくった。この石畳を「馬踏みの石畳」という。

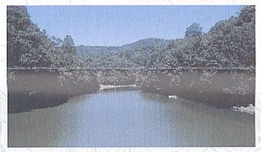
A4 王子の森
椹野川に向かって突き出た丘陵に８個の古墳があり、福生寺という大寺があったとされる。これにちなんで、聖徳太子の次男福性太子が住んだとの伝承が生まれ、享保期の「地下上申絵図」に早くも「王子の森」と記述されている。

A5 山伏様
昔、ある領地の家老と対立した若侍が山伏に変装して九州に逃れる途中、ここで追っ手に討ち取られた。後を追ってきた妻も悲嘆して自害。その哀れさに村人が比翼塚として、祀ったとされる。



A6 子安観音と光沢即明墓
光沢即明和尚は、この地に小鯖の禅昌寺の末寺巨福庵を再興し、宝暦７（1757）年村民のため大乗妙経を一字一石に書写して埋納し、上に石造五重塔（大乗妙典宝塔）を建立した。今も子安観音として崇敬され、傍に即明和尚の墓がある。

A7 秋葉様
防火を願って、勝井・法満寺の人々が明治28（1895）年、善門寺（白石）から「秋葉山威徳大権現」（通称、秋葉三尺坊）を勧請した。毎年３月に地区民による祭礼が続けられている。



A8 伊藤五兵衛と「郷之尾堤」
伊藤家は代々吉敷毛利の給領庄屋であった。文化12（1815）年、五兵衛は息子の助左衛門と高井・勝井の田に水を供給する「郷之尾堤」の水量を増すため、新たに背後の山にトンネルを掘り、法満寺の谷川から水を引き込んだ。

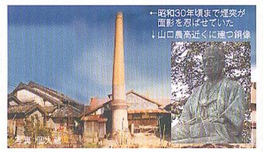
A13 大歳様
農耕の守護神「大歳様」が祀られていた小字・大歳に明治28（1895）年小学校を開校、地名から大歳小学校と称し、「大歳様」は学校横に移動。その後も増改築の都度移転を重ね、昭和初期に現在地に移る。村名も小学校にちなんで大歳となった。

A9 供有橋と田中平四郎碑
田中平四郎は文久２（1862）年生まれ、ハワイで砂糖キビの栽培で成功し、昭和のはじめ日本へ里帰りした。故郷の人びとが飛び石だけの橋で苦労しているのを見て私財を投げだして石橋をかけ「供有橋」と名付けた。現在は３代目の橋である。

A10 山下玄良の顕彰碑
山下玄良は宝暦５（1755）年、岩富に生まれた。名医として名高く、藩医にとの要請を断り、町医者に徹した。「静恬・寡欲・勢利にうすき」医者であり、かつ山口でも有数の文化人であった。文化12（1815）年に逝去。墓は最明寺にある。

A14 洋風の松村医院跡
朝田神社の西側にあり、大正風の洋館で松村章医師の医院跡。名医として有名で「松村先生に診てもらってだめなら死ぬだけ」と言われた。娘の松村純子（しょうこ）は水泳選手として昭和11年のベルリンオリンピックに出場した。

A15 調べの森
永禄12（1569）年、豊後から大内輝弘軍が乱入したとき、毛利側はここに純問所を設け、輝弘に味方した大内浪人の取り調べを行った。村人は拷問によるうめき声を聞き、「しらめ（白眼）の森」と恐れたという。

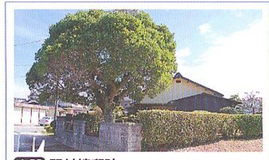


A16 林勇蔵の生家（山田酒場）跡
文化10（1813）年、吉富の分家で酒造業を営む山田和吉の四男に生まれ、小郡の林家の養子となる。勤倹で誠実、寡黙で、農民代表の自覚が強かった。「大田・絵堂の戦い」に小郡人民を率いて兵站支援をし、また明治期の椹野川改修は有名。

A17 大曲り
石州街道は上矢原の高閑から湯田の境下市橋のまで大きく北に曲がってあり「大曲り」と呼ばれた。かつての石州街道の姿をよく残した場所であり、吉富簡一の旧宅や岡布政之助の碑などがある。

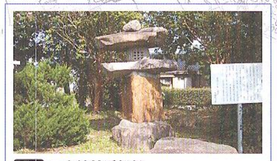
A18 吉富簡一邸
吉富簡一は天保9(1838)年、矢原村に生まれ、代々大庄屋であった。井上聞多（馨）を総督に鴻城軍を組織して矢原将軍と呼ばれた。初代県会議長となり、防長新聞社を創立して県政の大立て者となった。　通称　藤兵衛。

A19 周布政之助の碑　麻田公輔の墓
文政6(1823)年生まれ、村田清風の薫陶を受け改革派の中心人物として安政の改革を実施、敬親公の厚い信頼を受けた。第一次征長軍が迫る中、元治元(1864)年9月26日吉富簡一邸の裏庭で自刃。42歳。近くに麻田公輔名の墓あり。

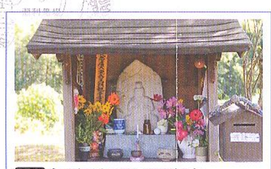


A20 野村靖邸跡
天保13(1842)年生まれで、吉田松陰の弟子、後の子爵、内務大臣。藩庁移転とともに山口に移り、明治2(1869)年からこの地に居を構え、門名は「沖(椹野川の近く)の野村」で、当時は椹野川のすぐそばだった。今も当時のヤマモモの木が残っている。

A21 杉山誉重顕彰碑
明治15(1882)年に生まれ、若くして矢原堰の井手総代となり、しばしば洪水で流出する井堰の管理に全力を注いだ。昭和10年代、流出のおそれのないコンクリート井堰の完成に全力を注ぎ、完成させた。



A22 日吉神社遥拝燈
椹野川の氾濫で、平井に属していた富田原は川を挟んだ飛び地となり、平井の日吉神社への参詣が困難になった。そのため遠くから拝めるよう遥拝燈が設けられた。明治になって豊年踊ができ、日吉社参りは容易になったが、遥拝燈は当時のまま残っている。



A23 矢原河川公園の馬頭観音
江戸時代、牛や馬は貴重な財産であり労働力であった。そのため、血抜きなどを行う牛馬の治療地や災難に遭遇した場所などに馬頭観音が祭られ、牛馬の無病や安全を祈った。大歳地区の馬頭観音は（🐴印）の９か所。

A24 和田の森様
巨木や巨岩などの自然物を崇拝するアニミズムの名残として各地に見られるのが「森様」である。長寿の大木を祀ったもので、河内のシイ、馬庭のフジ、和田のカシ、岩富のクロガネモチなど大歳地区には森様が4か所ある。（🌲印）

大歳歴史散歩コース

❶ 大歳中央コース（約2km）
大歳地域交流センター → 恵美須社（A12） → 黒川市公会堂の薬師如来像（A11） → 供有橋と田中平四郎碑（A9） → 山下玄良の顕彰碑（A10） → 最明寺（B1）・岩富八幡宮跡（B7） → 洋風の松村医院跡（A14） → 朝田神社（B10） → 大歳様（A13） → 大歳地域交流センター

❷ 大歳東コース（約3．5km）
矢原河川公園駐車場 → 馬頭観音（A23） → 調べの森（A15） → 林勇蔵の生家跡（A16） → 吉富簡一邸（A18） → 大曲り（A17） → 周布政之助の碑・麻田公輔の墓（A19） → 若宮八幡宮跡（B9） → 野村靖邸跡（A20） → 矢原河川公園駐車場

❸ 大歳西コース（約7km）
大歳駅 → 郷之尾堤（A8） → 高井八幡宮跡（B5） → 和田の森様（A24） → 子安観音と光沢即明墓（A6） → 朝田公会堂の木像（A2） → 周防五の宮跡（B4） → 馬踏堤防（A3） → 王子の森（A4） → 山伏様（A5） → （軽便鉄道跡） → 大歳駅

公会堂等は施錠されている場合がありますので、事前にご確認ください。

石州街道
古　道
軽便鉄道
地域境界線
国道９号
県道204号線

大歳と湯田・吉敷の境界線は水路です。水田が広がっていた時代にはわかりやすい境界でしたが、人家が増えるとともに変わってきました。